



第8図 1963年2月15～19日にかけての小低気圧

—— 低気圧軸    - - - - 札幌のトロポーズ

庄の上を通る傾上層の強い傾圧場の下に位置した小低気圧は中心示度が深まり、低気圧性循環が強まっている。18日21時には上層低気圧性渦は北海道を通り、下層の低気圧部が弱まったが、その後再び西海岸で下層でのみ低気圧が形成され始めている。第8図はコールド・ロウで作ったモデルであるが、コールド・ロウの時はトラフで置換えるとよく、小低気による気象変化の激しさは、このように上層のじょうらんが重なる頃に、下層の収束、不安定の増大、解消によりおきると考えられる。

4. むすび

この調査は昭和38年度全国予報検討会資料としてなされたものであるが、日頃いろいろと御指導をいただく台

長北岡竜海氏、技術部長日下部正雄氏、予報課長田中文字治氏にあつく感謝します。

文 献

- 1) 長谷川徳太郎 1945: 北海道西岸に発生する副低気圧について、北海道気象要報、特別号第3号、札幌管区気象台、11°～8.
- 2) 杉中誠一 1952: 北海道西岸に発生する低気圧について、北部気象研究会誌、第4号、札幌管区気象台、1°41～44.
- 3) 杉中誠一 1958: 北海道西海岸の低気圧、技術時報付録、予報メモ第6号、札幌管区気象台.
- 4) 串崎利兵衛・菅原正信 1961: 日本海岸に発生する小低気圧について、技術時報付録予報メモ第16号、札幌管区気象台.

1965年国際雲物理会議について

国際雲物理会議は1961年濠洲における会合について、明1965年日本で開催されることになった。今回からは、IUGG (国際地球物理学及び測地学連合)、実際にはその下部組織の IAMAP (国際気象学及び大気物理学連合)、更に WMO との国際連帯が強調され、これに日本気象学会、日本学術会議が加わって、四者の共催として会が開かれる。その要目は次の通りである。

a) 会議に含まれる学術分野

1. 降水物理学 (Precipitation physics)
2. 凝結及び氷晶核の物理学 (Physics of condensation and ice nucleation)
3. 雲の気象力学 (Cloud dynamics)
4. 下の分野で、特に雲物理と関連の深い題目  
レーダー気象学 (Radar meteorology)  
気象電気学 (Atmospheric Electricity)  
大気化学 (Air Chemistry)  
人工降雨 (Weather modification)

b) 期日と開催地

5月24日(月)～5月28日(金)：東京学会 (Tokyo scientific session)

- 5月29日(土)、5月30日(日)：遠足その他の行事 (Excursion and extrascientific activity)
- 5月31日(月)：東京より札幌への空路旅行、北海道大学見学
- 6月1日(火)：降水物理に関する札幌セミナー (Sapporo seminar on precipitation physics)

c) 会議開催迄の諸日程

- (1) 参加申込と論文題目の通知 1964年10月31日
  - (2) 英文アブストラクト提出締切 1964年1月31日
  - (3) 英文論文原稿提出締切 1965年3月31日
- アブストラクト及び論文原稿は英文とする。論文原稿は複写を一括仮綴し、会議前に参加者に配布する。

d) 出席者

会議には全世界から、多数の第一線雲物理学者、及びこの分野での大家の出席が予想され、参加者は日本側出席を含め150名以上に及ぶ見込である。

e) その他の通知、問合せ

今度会議開催の細目は決定次第発表、通知する。この学会についての通信、問合せは下記に寄せられたい。

1965年国際雲物理学会組織委員会幹事  
高橋喜彦  
東京都杉並区馬橋 4-499 気象研究所